

P-57

人参養栄湯により陰陽虚実のスコアの逆転とともに腫瘍マーカーの改善がみられた原発性肺癌の一症例

島根難病研究所¹⁾、ナーシングセンターひまわり²⁾、東北大学 医学部 人間行動学³⁾、出雲市民病院⁴⁾、島根県立中央病院⁵⁾

○亀井 勉^{1) 2)}、熊野宏昭³⁾、成相泰夫⁴⁾、武田 勇⁵⁾

【目的】人参養栄湯は従来、大病後の体力減退（陰・虚証を目標）に用いられ、最近では骨髓造血系の促進作用や免疫賦活効果が報告されている。我々は、これを高齢肺癌患者に用い、陰陽虚実の診断基準のスコアと腫瘍マーカーの変化を調べ、関連性を検討した。

【対象】77歳女性。身長153cm体重46kg。1993年、CTにて左上区にStage IIIの原発性肺癌（T₄N₀M_x）が発見され化学療法を行った。軽度の咳と痰の他には特記すべき現症・既往歴はなかった。1995年、左舌区胸膜に接する腫瘤（径約1cm）を発見、全ての薬剤を中止。1996年より人参養栄湯（N108コタロー人参養栄湯エキス細粒、以下N108）15g/日を投与し、投与前、投与2日後、4日後、1週間後、2週間後、7週間後に腫瘍マーカー（CEA, AFP, CA19-9, CYFRA）の測定と陰陽虚実の診断基準（寺澤）のスコアリングとCT撮影を行った。

【成績】CEA, CA19-9の値は、投与前では順に14.6ng/ml, 55.0U/mlで1週間後まではほぼ変化はなかったが、2週間後で14.8ng/ml, 48.5U/ml、7週間後で11.3ng/ml, 39.2U/mlと低下してきた。AFPとCYFRAは変動しなかった。一方、陰陽及び虚実の診断基準のスコアは、投与前では順に-5, -12.5で1週間後まではやはり変化はなかったが、2週間後で+10, +15、7週間後では+12.5, +17.5となり、陰陽・虚実ともスコアが負から正へ逆転した。CTにて腫瘍の増大はなかった。食欲も増加し、体重は7週間後で52kgまで増加した。

【考察】胸膜への転移とCYFRAの変動がないことから腺癌が推測されるが、CEAとCA19-9（特に後者）と陰陽虚実のスコアの変化との間に関連がある可能性が考えられる。このような悪性腫瘍罹患患者においても、陰陽虚実の「証」のスコア値の確認のもとにN108のような免疫賦活効果を有する漢方薬を用いると、有意な延命効果が期待できると思われる。

【結論】原発性肺癌では、陰陽虚実の「証」のスコアの確認の上で人参養栄湯を使用することで、CEAなどの腫瘍マーカーの改善さらに延命効果が期待できると思われる。